

<h1>第 363 回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	記録
	企画運営委員長 保 科	企画運営委員 森

- ◎ 日 時：2023年12月15日（金）10時00分～16時35分（ブレイクアウトルーム9時半～16時35分）
- ◎ 場 所：対面（きゅりあん）＋リモート開催（Zoom）
- ◎ 出席者：32名（法人会員15名10社、個人会員15名、他2名（外部法人））

1. 開会挨拶・トピックス紹介、他

10：05～10：15 企画運営委員会

- ・2024年は4月、7月、10月に対面開催（リモート併催）を予定
- ・2024年2月の月例会では、年次総会を併催する（総会13時～、月例会14時30分～）

2. 自己紹介「今年の振り返り、来年への心構え、など」

10：15～11：50 月例会参加者全員

- ・機械ユーザーの機械安全についてのリスクアセスメント・リスク低減等の現状調査のご協力依頼 安衛研 芳司様
- ・午前からの参加者全員発表

3. 特別講演「ポジティブ安全」

13：00～14：40 明治大学名誉教授 向殿 政男 氏

概要

- ・これまで、安全の定義はネガティブ領域での不具合の低減であったが、これからはポジティブ領域における好事例の拡大という、前向きに安全を考えるポジティブ安全を展開する。これは、ISO/IEC Guide51の安全の定義である「許容できないリスクからの解放」そのものであり、Safety2.0、ビジョンゼロ、協調安全など新しい安全を取り入れて、種々の機械装置におけるリスク低減の好事例を広めていく。

4. 討議説明「これまでの安応研の実績と今後の活動」

14：50～15：30 企画運営委員長 保科 修一 氏

- ・目的：新技術の確立と実務域の普及
- ・従来から今後への転換（反省と課題）－ 安全技術、普及課題、組織運営など

5. 課題討議「安応研が目指す方向と創出すべき成果」

15：30～16：35 参加者全員

- ・国内では機械安全の機運が低調である。安応研の活動でそれを打開するためには、活動の方向や考え方を明確にして、外部へ情報を発信することが必要である。また、他団体との協業も検討しなければならない。今後どのように取り組んでいくべきか討議した。

6. 閉会挨拶・その他

- ・対面開催のため活発な討議が行われ、更に対面開催の頻度を上げる効果が確認できた。

- ・次回第 363 回月例会は、1 月 19 日（金）13 時 00 分～16 時 30 分リモート開催予定。
- ・4 年ぶりの忘年会も盛大に行われた（参加者 15 名）。

月例会説明資料：ホームページ内の会員専用ページにて掲載

以上